

課題名	49. 温州ミカンの酸含量と積算気温との関係																																				
成果の要約	<p>1977年から1987年までの果樹試験場内の宮川早生の酸含量と気温を用い、一定の酸含量に達するまでの期間とその期間内の気温の積算値を求めた。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 開花から酸含量が1.0に達するまでの日数は211日から168日まであり、平均は184日であった。 2. 期間内の気温積算値は最低気温3497.4℃、最高気温は4988.2℃、平均気温は4244.7℃であり、ハウスミカンで試算されている数値にかなり近似している。 3. 気温では最低気温の年度間の変動係数が最も小さかった。 4. 開花から酸含量1.0までの日数を最低気温の積算値から試算すると、最も大きくはずれる年で約10日の違いになる。5日の違いは18年間のうち11年であり、ある度の実用性はあるものと思われる。 																																				
成績概要	<p>早生温州の開花から酸含量1.0 (g/100ml)までの気温及び降水量積算</p> <table border="1" data-bbox="233 982 1608 1368"> <thead> <tr> <th></th> <th>日数</th> <th>平均気温</th> <th>最高気温</th> <th>最低気温</th> <th>降水量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平均</td> <td>184</td> <td>4244.7℃</td> <td>4988.2℃</td> <td>3497.4℃</td> <td>1293.6mm</td> </tr> <tr> <td>標準偏差</td> <td>12</td> <td>140.4</td> <td>201.1</td> <td>104.8</td> <td>319.4</td> </tr> <tr> <td>変動係数%</td> <td>6.5</td> <td>3.3</td> <td>4.0</td> <td>3.0</td> <td>24.7</td> </tr> <tr> <td>最大値</td> <td>211</td> <td>4548.7</td> <td>5415.2</td> <td>3678.5</td> <td>2160.5</td> </tr> <tr> <td>最小値</td> <td>168</td> <td>3952.2</td> <td>4590.3</td> <td>3310.5</td> <td>808.2</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">(果樹試験場)</p>		日数	平均気温	最高気温	最低気温	降水量	平均	184	4244.7℃	4988.2℃	3497.4℃	1293.6mm	標準偏差	12	140.4	201.1	104.8	319.4	変動係数%	6.5	3.3	4.0	3.0	24.7	最大値	211	4548.7	5415.2	3678.5	2160.5	最小値	168	3952.2	4590.3	3310.5	808.2
	日数	平均気温	最高気温	最低気温	降水量																																
平均	184	4244.7℃	4988.2℃	3497.4℃	1293.6mm																																
標準偏差	12	140.4	201.1	104.8	319.4																																
変動係数%	6.5	3.3	4.0	3.0	24.7																																
最大値	211	4548.7	5415.2	3678.5	2160.5																																
最小値	168	3952.2	4590.3	3310.5	808.2																																
普及上の留意点																																					